

「2023年度ベトナム国家大学ハノイ校スプリングスクール派遣参加報告書」

京都大学工学部1年 中島 里菜

① 学習成果

私が本プログラムへの参加を志望したのは、昨年の9月にILASセミナー(海外)でベトナムを訪れたことがきっかけだ。それが人生初の海外渡航だったのだが、私は見事にベトナムに、成長中であり、まだまだ成長を続けるだろう国の勢いのある空気にハマってしまった。次の海外渡航もベトナムにしようと心に決め、帰国後は、文学部が開講している「初級ベトナム語」の授業に参加し、国際知識検定のひとつベトナム検定5級を取得した。そのため、本プログラムの存在を知った時は、まさに私のためのプログラムだと思ったほどだった。実際にハノイで2週間を過ごして、また違った視点でベトナムを捉えることができた。高層ビルの上階が見えなくなるほどの大気汚染、河川は悪臭がし、川面には謎に黄色いような空気が立ち込めている。市内最大の湖、タイ湖では魚が白いおなかを見せて浮かんでいた。おそらく、ハノイが首都であることと、3月初旬という季節も原因ではあるのだろう。しかし、かつての日本もそうだったのだろうが、当たり前のように環境を破壊しながら成長を続ける姿には何か歪なものを感じてしまった。だからと言って私のベトナム愛が今回の派遣で薄れたということはない。私にとってベトナムが興味を惹かれる国であることに変わりはないし、また何度も訪れるつもりだ。しかし、次はタイやインドなど別の国にも行きたい。もちろんアフリカの国々やヨーロッパ、北米なども訪問したいと思う。様々な国の現状を自分の目で見たい。今回の派遣は、次へと目が向くきっかけになった。

② 海外での経験

今回は、人生で2回目の海外だった。前回と違い、何かあれば頼れる責任者がおらず、自分たちだけですべての問題に対処しなければならないということが、渡航前は心底不安だった。しかし、何事もやってみれば何とかなるものである。航空券・ホテルなどは予め手配してもらっているし、プログラム参加メンバー10人の中には海外渡航に慣れている人もいるし、ベトナムに行けば現地の学生がいるしということで、何事もなく帰ってくることができた。わからないことや困ったことがあっても、素直に助けを求めれば応えてくれる人は必ずいると感じた。だからこそ、誰かが困っていたら自分にできる範囲で助けになろうとする必要がある。そして、上辺だけでなく本当の意味で助け助けられる関係になるには、相手を信頼し本当の自分を出していくことが大事だ。取り繕って、自分のいいところ、無難なところだけを見せるのではなく一どちらにしる2週間も共に過ごすと、よくもわるくもお互いのことが分かってくるのだしーしっかりと自分らしさを出していくべきである。私は初めの方は遠慮している部分もあったが、最終的には素の自分を出すことで、より楽しいベトナム生活を送ることができた。また、これは海外へ集団渡航する際に限らず、普段の生活でも同じだと気が付いた。私はクラスやサークルでもつい取り繕ってしまうことが多いので、これからはきちんと自分を表現して、自分を理解してもらおうこと、そして相手を理解することに努めようと思った。

③ プログラム内容

正直なところ、授業の内容は、最初の1週間のUSSHの方がおもしろかった。特に、日本研究を行っている外国人研究者の招待講義に、私たちも参加できたのは貴重だった。「中世日本のうらない」と「道元」をテーマにフランス人研究者とアメリカ人研究者からそれぞれお話を伺うことができた。海外の地で日本についての研究を日本語で聞くというのは、不思議な気分だった。日本に関心がある人は海外にもいて、人生をか

けた研究の対象になるくらいおもしろいことが日本にもあるということを再認識させられた。私たちはもっと自国の歴史や文化について学ぶ必要があるし、それらに自信を持ってよいと感じた。2週目の ULIS での発音指導は良かった。私は本プログラム参加前からベトナム語を学んでいたの、特に有意義に感じた。しかし、共同発表準備と日本語授業聴講以外はすべてベトナム語の授業というのは、正直少し飽きがきた。先生側も時間がありすぎて、最後の方は何を教えたらいいのかわからなくなっていた印象を受けた。そのため、基本的な文法事項などはもっとしっかり事前に日本で学習して、発音や会話実践など現地でしかできないことを ULIS で学ぶ時間をとれたらよかったと感じた。

④ 進路への影響

一緒にこのプログラムに参加したメンバーと出会えたことに感謝したい。文系学部も理系学部もあり、さらに年齢や進路、志していることも多様であり、いろいろな考え方や生き方があるのだと刺激を受けた。私も交換留学や大学院進学、その先について迷うことはたくさんあるが、自分なりの志を持って、自分の決断を積み重ねていこうと思えた。